

ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

1. 令和7年度ヒグマWGの開催概要

- ・第1回会議 令和7年7月31日（木）オンライン開催
- ・第2回会議 令和8年2月12日（木）北農健保会館

2. 主な議事内容

知床半島ヒグマ管理計画に基づく管理の進捗状況報告のほか、以下について議論した。

■イワウベツ川のヒグマ対策について ※資料 1-6 関連

- ・ヒグマ出没期の巡視回数、巡視時間を増やし対応を強化。巡視時は抑止効果を確認できたが、常習者や一部の来訪者は、時間帯をずらす、短時間での移動を繰り返すなど、対策を回避する傾向が見られた。短期的には巡視や指導等を継続し、中長期的にはアクセスコントロールを含む利用のあり方の見直しや普及啓発、制度面の整理を通じて、利用者自身が自ら適切な行動を選択できる状態を目指す。

<主な意見・指摘事項>

- ・アクセスコントロールは体制を整えなるべく早い段階で実施すべき。
- ・常習者対策として、刑事告発が可能となるよう自然公園法の運用を改善すべき。
- ・WGとして緊急声明の発出を科学委員会に提案することを承諾する。

■知床ヒグマ対策連絡会議でとりまとめた事故検証及び再発防止策(案)について

※議事 3 関連

- ・登山という活動の特性を踏まえつつ、ヒグマ生息地での登山に関する情報発信や注意喚起のあり方を検討。登山道でのヒグマ情報の収集～意思決定のフローを整理する。
- ・ヒグマ問題の背景と考えられる問題個体の発生抑制に取り組み、知床半島ヒグマ管理計画を臨時改定し、上記と併せて問題個体の捕獲を強化する。

<主な意見・指摘事項>

- ・登山道での対応は7-9月を中心に実施予定とあるが、GW頃から利用がある。現地ガイドとも連携の上、試験期間を設けて対応を前倒して実施してはどうか。
- ・登山者へ発信するリスク評価による区分は、ヒグマ自体の行動段階や誘引物の有無だけでなく、ヒグマの問題行動を引き起こしうる人の行動も考慮した方がよい。
- ・捕獲強化に関して、子連れメスの行動特性としてオスを避ける目的で意図的に人里付近に出没している可能性がある。そうしたメスの捕獲に偏ると、過剰となったオスが市街地への出没を繰り返す、負のスパイラルに陥る恐れがあるので、ヒグマの行動段階の判断においては個体の行動履歴を考慮すべき。

3. 令和8年度ヒグマWGに関する今後の予定

令和8年度は2回程度開催を予定。

R9年度末に予定されている知床半島ヒグマ管理計画の本改定に向けた議論を実施。

第1回ヒグマWG：令和8年7月頃 羅臼町または斜里町

第2回ヒグマWG：令和8年12月頃 釧路市

以上